

沿革

2007年3月31日現在

会社の歴史

- 1890 (明治 23) 創業者田口謙吉が大坂北浜に田口参天堂を開業

- 1925 (大正 14) 参天堂株式会社を設立
- 1935 (昭和 10) 大阪市東淀川区に淀川工場を開設
- 1945 (昭和 20) 本社を淀川工場の敷地 (現本社所在地) に移転
社名を参天堂製薬株式会社に変更

- 1958 (昭和 33) 社名を現在の参天製薬株式会社に変更
医療用医薬品事業に進出

- 1977 (昭和 52) 東京・大阪証券取引所第1部に上場
容器成型と薬液充填を同時に行う「ボトルパック」製造システムを導入
- 1982 (昭和 57) 中央研究所が竣工
- 1985 (昭和 60) 能登工場が竣工

- 1990 (平成 2) 創業 100 周年をむかえ長期ビジョンを策定

- 1993 (平成 5) 米国にサンテン・インクを設立
- 1994 (平成 6) ドイツにサンテン・ゲーエムペーハーを設立
- 1995 (平成 7) 北京事務所を開設
- 1996 (平成 8) 奈良研究開発センター、滋賀工場が竣工
- 1997 (平成 9) フィンランドの眼科薬企業スター社を買収し、サンテン・オイを設立
台湾参天製薬股份有限公司を設立
- 1998 (平成 10) 中期構想「ひとみ 2I」を策定

- 2000 (平成 12) 韓国参天製薬株式会社を設立
広州事務所を開設
- 2001 (平成 13) 米国のアドバンスド・ビジョン・サイエンス・インクを買収
- 2002 (平成 14) 患者さんの視点で開発した革新的な医療用点眼剤容器「ディンプルボトル」を導入
- 2003 (平成 15) 2003 - 2005 中期経営計画を策定
能登工場で ISO14001 を取得
医薬情報活動支援システム「SAIN (サイン)」を構築
- 2004 (平成 16) 米国でジョンソン・エンド・ジョンソン ビジョンケア・インクによる医療用眼科薬の提携販売を開始
- 2005 (平成 17) 上海事務所を開設
参天製薬 (中国) 有限公司を設立
- 2006 (平成 18) 2006 - 2010 年度中期経営計画を策定

製品の歴史

- 創業当時 主力製品は風邪薬「ヘブリン丸」

- 1899 (明治 32) 「大学目薬」

- 1952 (昭和 27) 「大学ペニシリン目薬」
- 1953 (昭和 28) 「大学マイシリン目薬」
- 1954 (昭和 29) 「大学スーパー目薬」
- 1956 (昭和 31) 「サンテドウ」

- 1962 (昭和 37) 散瞳点眼剤「ミドリリン P」
国内初のプラスチック容器目薬「スーパーサンテ」
- 1963 (昭和 38) 自社開発の肝治療解毒剤「チオラ」
- 1970 (昭和 45) 抗生物質製剤「エコリシン」
- 1975 (昭和 50) 抗炎症点眼剤「フルメトロン」

- 1978 (昭和 53) 医療用具の販売開始
- 1981 (昭和 56) 緑内障・高眼圧症治療剤「チモプトール」

- 1985 (昭和 60) 「サンテ 40NE」
- 1986 (昭和 61) 眼内レンズの販売開始
- 1987 (昭和 62) 合成抗菌点眼剤「タリビッド」
抗リウマチ剤「リマチル」

- 1991 (平成 3) 「サンテ FX」
- 1992 (平成 4) 眼灌流・洗浄液「ピーエスエスプラス」
初期老人性白内障治療剤「カリユニ」

- 1995 (平成 7) 角結膜上皮障害治療剤「ヒアレイン」
抗アレルギー剤「アレギサル」
抗リウマチ剤「アザルフィジン EN」
眼科手術補助剤「オベガンハイ」

- 1999 (平成 11) 緑内障・高眼圧症治療剤「チモプトール XE」
「サンテ FX ネオ」
- 2000 (平成 12) 合成抗菌点眼剤「クラビット」
- 2001 (平成 13) 緑内障・高眼圧症治療剤「デタントール」
抗アレルギー剤「リボスチン」
- 2002 (平成 14) 「サンテドウプラス E アルファ」
「サンテ 40」
- 2003 (平成 15) フォールダブル (折りたたみ式) 眼内レンズ
「クラリフレックス」
- 2004 (平成 16) 緑内障・高眼圧症治療剤「レスキュラ」
抗リウマチ剤「メトレート」

- 2006 (平成 18) 春季カタル治療剤「パピロックミニ」
「サンテメディカル 10」「サンテAL クールII」

※当社での販売開始の年を基準に記載